

公共交通アンケート結果報告について

【調査目的】

外出目的に応じた移動手段・公共交通の利用状況、交通弱者のニーズを調査し、公共交通(バス)の利便性向上を図る。

【調査対象】

65歳以上の市民の方を対象に2,000人を無作為抽出

【実施期間】

令和7年9月～10月

【主な調査内容】

1. 回答者属性
2. 日常の外出状況
3. バスの利用状況
4. 今後の公共交通(バス)のあり方
5. 公共交通に関する意見・要望

【回収率】

64.05%(回収数 1,281 件(有効回答 1,268 件)/配布 2,000 件)

【アンケート結果】

現状については、よく行く外出先の目的として、1番目に「買い物」、2番目に「通院」、3番目に「金融機関」となった。「買い物」は全年代において高い割合となり、「通院」は年代が上がるごとに高くなる結果となりました。買い物・通院における移動手段の約8割が、自家用車による移動となっている。

次に、バスの利用状況については、「利用していない」と回答した人が93.0%となった。バスを利用していない理由のなかで、「目的地」や「利用したい時間」、「バス停の位置」など回答があるように、「病院、スーパー、JR 駅への運行本数の充実・利便性向上」、「各地区公民館へバス停の設置」、「デマンドの導入」、「医大や好生館への路線」、「久保田駅への路線」といった要望・意見がありました。

また、「行きはバスで移動できても帰りのバスがない」、「乗り換えの待ち時間が非常に長く利用が難しい」など、移動先での滞在時間や各路線の接続を考慮したダイヤの見直しが必要不可欠と改めて認識しました。さらに、「運転免許の返納や年齢により移動が難しくなったときの代替手段」、「外出機会の減少」、「年金生活の厳しいなかでタクシー利用は難しい」など、現状・今後の不安といった声もうかがえ、「免許返納後の移動手段として公共交通の利用を考えたい」といった期待の声もうかがえました。

今回報告したアンケートについては、今後の公共交通計画策定に向けた基礎資料として、居住地区ごとや年代ごとについてもこういったニーズがあるか分析を行い、運行路線やダイヤ等の見直しを図っていきます。

